

<p>教育理念・目標</p>	<p>日本国憲法が定める基本的人権を尊重し、平和で民主的な社会の形成に資する主権者を育てる。 法政大学の校風として育まれた「自由と進歩」を体現する主体的で創造的な人間を育てる。 豊かな知性と教養、健康な心と身体、思考力と判断力を有する人間を育てる。</p>
<p>重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・命と人権を重視し、保護者とも連携して生徒と真摯に向き合いながら生徒の成長をサポートする。 ・昨年度発生したクラブ事故の教訓化を関係諸組織で進め、学校全体で安全性の向上に努める。 ・生徒の状況を学校全体で組織的に把握し、生徒を中心に据えた活動が展開できるように努める。 ・個々人が全体状況を見据え、各担当部分をコントロールし、持続可能な学校運営をめざす。 ・チームワークによる教育力向上をめざし、教員会議に結集し共通認識をつくる。 ・内外の教育問題に主体的に取り組むための教育的な指導論の研究と研修を行い、研修への参加を促す。対話のできる自省的な教師集団への成長を目指す。

共通課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 2018年9月8日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	<p>建学の精神 (建学の精神や理念の理解と意識化)</p>	<p>行事の目的を点検し、教育目標に沿った各行事の位置づけや実施時期の検討に取り組んだ。高校スポーツ大会や中学の陸上競技大会の開催時期や開催場所について新たな実施形態を決定し、次年度から新たな形で実施する準備に取り組むことが出来た。教育目標を各行事、各教科、分掌における教育活動でさらに具体化するための討議を進めていきたい。</p>				<p>学校で開催することになったのは、とても良かったと思います(中学)。</p> <p>「自由と進歩」の理念が学生に浸透しているか否か、疑問。週一回 or 月一回程度、このテーマの授業があっても良いと思う。</p> <p>子どもたちも、少しずつ理解してきていると思います。</p>
2	<p>組織運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の教研では、早稲田大学スポーツ科学学術院・中澤篤史准教授をお招きし、クラブ指導における今日的課題について学ぶことができた。また、冬の教研では、日本体育大学の南部さおり准教授、クラブ事故で子どもさんを亡くされた遺族の方々2名をお招きし、クラブ事故の被害者の視点から生命の尊厳をみつめ、教育活動を見直すことに努めた。いずれの研修もこれまで私たちが行ってきたクラブ指導を相対化することに非常に有効であった。引き続き、クラブ活動の科学的な指導と運営による安全・安心な活動実現のための研修を全教職員で行い、この課題への対応能力のさらなる向上を目指していきたい。今年度の各研修で得られたこと、特に「弱い立場の生徒に目をかける対応」について、引き続き日常の指導に活かしていきたい。 ・今後のクラブ活動のあり方についての検討に着手することもできた。教育目標や社会の動向に目を配りながら、本校の教育活動でどのような指導に取り組んでいくべきか、また、どのような体制であれば安全・安心を担保でき、持続可能なクラブ指導を展開することができるのかを引き続き検討を行っていく必要がある。 ・教員会議の議事を昨年に比べ、合理的かつ闊達に進められた。 ・一部の行事の検討に関わって、行事の実施時期やそのあり方についての検討を行った。年間を通した行事实施時期の検討や通常業務のあり方を総点検し、過密なスケジュールを解消するための検討を始めたばかりである。精神的なゆとりを持ちながら生徒と接する時間、教科教育や行事指導を研究する時間を確保し、日常業務に余裕をもってより確実に遂行できる環境づくりを実現していきたい。 ・各組織における「コンプライアンス」の向上にも取り組んだ。成文化されているものに止まらず、成文化されていない「倫理的・道徳的な価値観」「マナー」「社会人としての常識や良識」も対象に位置づけ、学校組織として必要な対応を実施することを目標に掲げて取り組んできた。教育旅行の見積合わせのあり方など、法人から指摘を受けた点については、事務組織や各学年会と協力しながら取り組み、前進をはかることができた。 ・3回のハラスメント研修を実施し 69.5%の教員の参加を実現することができた。これまで、十分に実施に至らなかったが、当該テーマの研修に着手することができた。次年度もハラスメントやパワハラについて引き続き職場全体で学び、防止に努めたい。 ・2017年度予算執行にあたっては、持続可能な学校運営を優先する必要があるとあり、教育研修の補助や図書の購入費用を一部削減しなければならない状況があった。持続可能な学校運営を実現していくためにも、個々人が全体状況を見据え全体で優先順位を決め、予算配分できるような仕組みの構築が必要である。 ・教育旅行行事を中心に業者見積もりの運用を大学の基準に合わせる取り組みを試みた。見積もり要項の当該学年会でのチェックなどを通じて、より確実に実施することができた。 ・卒業記念品に関しては、今年度から品目を選定し、具体的な品での寄贈を受けるという方法に改めることができた。引き続き、記念品の選定作業の更なる向上を図ってきたい。 				<p>先生方がこれまでの慣例にとらわれず今後のクラブ活動のあり方などを検討して下さっている事を知り、とても信頼できると思いました。</p> <p>ハラスメント研修など時代に即した研修をしていただいていることもとても良いことだと思います。</p> <p>他校を知らないので比較対象がないが、現状には満足している。他校の良い点があれば参考にしても良いと思う。</p> <p>組織は、しっかりしていると思います。もう少し、先生方の人数が多いと良いと思います。</p>

3	<p>教育活動 (教科、生活、進路、行事、自主活動等)</p>	<p>1. 教科 教務部では、2016年度総括と2017年度方針にもとづき、教務・進路指導・図書・国際交流・学事の5部門が丁寧に連携しつつ、各分野の業務に取り組み、生徒の学習活動と進路保障に努力した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程に関しては、学習指導要領の改訂（中学校：2017年3月告示、高等学校：2018年3月告示）を視野に入れ、本校の教育課程の問題点についての認識を共有した。 ・近年、AVやICTなどの教育機器の劣化が見られ、予算を見据えつつ、今後の教育活動の充実のためにも、修理・改善が喫緊の課題である。 ・図書部では、学習機関としての質的向上をめざすとともに、エントランスに図書情報の掲示板を設置するなど、生徒の図書館利用の活性化に努めた。 ・国際交流部では、留学・語学研修など国際交流活動の安全な実施に向けて取り組んだ。語学研修に関しては、3回目のカナダ語学研修を実施し、着実に成果を重ねている。 ・学事部では、授業時間の時間割作成に加え、行事に関わる特別時間割作成を円滑に遂行した。 <p>2. 進路 ・進路指導部では、中3・高3学年会と協力し、進路指導を着実に遂行するとともに、ウェルカムフェスタの開催など高大連携・3付属校合同の行事に主体的に関わり、進路指導内容の拡充を図った。</p> <p>3. 生活 生活3分野では、「命と人権」を最重要視し、昨年度のクラブ活動中の事故を教訓化し、安全・安心なクラブ活動の運営・生徒会活動・生活指導をいかに実践するかに関する研究・研修を行い、事故の未然防止へ向けた対策及び事故が起きた場合の組織的な対応能力の向上、教員間のチームワークの向上と情報の共有化、更には、生徒保護者を含めた「報告・連絡・相談」というコミュニケーションの質の向上に努め、より円滑な組織的連携の可能性を目指した。</p> <p>昨年度のクラブ活動中の事故に関しては、教員間での事実関係の共有化を行ったが、今後、引きつづき、事故を踏まえたクラブ活動・指導のあり方について教員間に共通の認識を醸成するための更なる教訓化が必要である。クラブ活動中の事故による生徒の怪我に関しては、報告書の書式を統一し、担任・学年主任・クラブ指導部・生活指導部・企画運営委員会で事故の状況・情報を共有できるようにした。</p> <p>安全なクラブ活動運営のための研修としては、クラブ活動中の事故に関する実例を挙げての学内教研を2度にわたって学校全体で行い、多くの教員の参加を得ることができた。そこでの学びを、各顧問が今後のクラブ活動運営・指導に活かすことが肝要である。同様の研修を次年度以降も継続して行う必要がある。</p> <p>一方、クラブ活動に対する教員（顧問）間の考え、担当クラブに対する思い等には隔たりが見られ、一定の方向性を示そうと試みたが、容易には合意点を見出すことができなかった。今後も継続して担当部署で検討を重ねる必要がある。</p> <p>今年度は法政大学ハラスメント防止・対策委員会による研修会も行った。法政大学が掲げるダイバーシティの問題として、LGBTにもふれた内容であり、多様な生徒に対応するための貴重な学びの場となった。現場での実際の指導の際にも、そこでの学びを活かしていきたい。</p> <p>(1) 生徒会 ①次の三点を方針として掲げ、活動した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの生徒が生徒会組織の一員としての自覚と責任感を持ち、学校生活の充実・向上のために力を尽くそうとする態度や能力を養うこと。 ・生徒が自発的、自治的に活動できる場や機会を確保し、自分の役割や責任を進んで遂行することによって、集団活動や行事運営を実践の場で身をもって学ばせること。 ・生徒の資質や能力を伸ばし、豊かな学校生活が展開できるような生徒会行事のあり方を再考すること。 <p>②安全・安心な生徒会行事の運営ができるよう、様々な場面で生徒実行委員会をサポートした。各行事における携帯電話の使用や企画内容等に関するルール作りに関しては、高校実行委員会の生徒の自治を尊重しつつ、共に考え、検討した。高校生の自治の力を用いた取り組みは昨年度よりも更に一步前進したといえる。しかし、その一方では、生徒会行事のルールの検討やガイドラインの作成及び行事の開催時期に関する見直し案の作成等にかかなり多くの時間と労力を割く結果となった。</p> <p>(2) 課外活動 ①本校におけるクラブ活動のあり方についての検討を行い、それと並行して昨年度の事故を踏まえ、顧問マニュアルの作成に着手した。クラブ活動のあり方に関しては、問題提起と提案をすることができたが、今後、クラブ活動の教育的な意義・目的や本校でのクラブ指導のあり方を含めて、個別問題の検討に入る必要がある。顧問マニュアルに関しては、引き続き検討を重ね、完成版を目指したい。</p> <p>③今年度は議論を始めることができなかったが、クラブ合宿に関してこれまでのあり方を振り返って考察することが必要である。生徒の安全・安心、働き方の問題・予算等、持続可能性を念頭に置き、今後どのように実施していくべきかを、次年度以降に検討していきたい。</p> <p>④今年度もクラブコーチ懇談会を開催した。各クラブコーチから生徒指導の現状とその課題が示され、学校側とコーチ間で生徒状況などの共有化が可能となり、有意義な時間とすることができた。しかしながら、参加クラブ数が約半数ぐらいにとどまっている現状もある。今後も内容や懇談会の設定（日程）についてより参加しやすく、内実の伴った形を検討し、取り組んでいきたい。</p>	<p>バランスがとれていてよいと思います。</p> <p>教育については、内部推薦なくとも法政大学に進学できる程度の学力レベル習得を目指してもよいと思う。その他の活動には、大いに満足している。</p> <p>クラブ活動は、学生のスポーツがアマチュアスポーツであるということで安全が最優先されるべきと思います。</p>
---	--	---	--

		<p>(3) 生活指導</p> <p>①今年度も引き続き、基本的人権の尊重、命の安全の保障を第一に据えた生活指導を心がけた。一人ひとりの生徒が、法政中高生であることに誇りを持ち、近隣の住民や登下校時に会う人々を含む、法政中高に関わる全員が安全・快適な生活を送れるように、法令を遵守し、公共のマナーやモラルを身に付けられるような生活指導を目指してきた。結果として、生徒の問題行動を、重大な生活指導案件に至る前に良い方向へ導くことができたのではないかと考える。しかしながら、ここ数年来の傾向であるインターネット・SNS を介しての問題行動がしばしば見られた。極めて見えにくい部分ではあるが、専門家による講演等を通して生徒間に危機意識を高めていく一方で、各教員の生徒理解の質を向上させ、日々の業務の中で個々の生徒に十分な目配りを行い、問題行動の未然防止に努める必要がある。</p> <p>②学年主任を中心に各学年の生徒状況やクラス状況を、より正確に迅速に把握するよう努めた。今年度も生活指導部会議に養護教諭、及びスクールカウンセラーの同席を得て、情報の共有および保健室等に入室する生徒の悩みや、問題を抱えている生徒へのアドバイスをすることができた。指導の際には、各学年会やクラブ顧問間で連携し、安全・安心な教育活動を進めることを意識して取り組むことができた。その結果、教員が団結して事に当たる姿勢を生徒に示すことができ、生徒の問題行動をある程度未然に防止することができた。</p> <p>③本校生徒の登下校時のマナーに関する指摘や助言への対応策として、年度途中より全教員に向けて毎週、または隔週「～生活指導部より～」を作成し、配布した。近隣の住民を中心とした外部の方々からの指摘・助言の内容を掲載し、各教員が現状を認識することによって、各クラスやクラブでの指導に役立てることができ、一定の効果があつたと考える。また、生徒による現状把握のため、数回にわたって、高校生活委員による登校指導が行われた。マナー改善のためにどのようなことができるのかについて生徒自身が考える機会を持ったことは大いに評価できる。今後につなげていきたい。</p> <p>④校則の点検、および見直しに関しては、降雨降雪時の雨靴の使用、指定のカバンに加えてリュック導入の検討、鉄道事故や降雪、およびその後の路面凍結に起因するバスを含む公共交通機関の遅延への対応など、一歩前進することができた。</p>	
4	<p>安全・保健管理 (保健、安全、防災、施設等)</p>	<p>1. 保健 (アレルギーを持つ生徒への対応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月に教員対象にエピペン講習会 (エピペン実習) を行い、エピペン携帯者の情報共有を行った。 ・宿泊行事前にアレルギーについてのアンケート調査を行った。アレルギーの有無だけでなく、除去食を希望するか、事前に献立の配布を希望するかも調査し対応した。 <p>2. 安全・施設・設備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理活動の一環として、夏休みに先立ち、各クラブの代表生徒に対して熱中症対策講座を行い、熱中症の予防、熱中症になった場合の対応法等について共に学ぶ機会を持った。今年度の日本体育大学南部さおり准教授による研修会の内容を踏まえ、次年度以降も講座の内容を精査しつつ、継続して実施していきたい。 ・使用団体からの要請に応じて、グラウンドや体育館の施設・設備の点検を行った。事故が発生する前に、事前に問題箇所を発見し、適切に対処することができた。安全安心を確保する観点から、点検の仕組み作りや、補修箇所などを発見した際の対応について整備する必要がある。 <p>3. 環境・防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防署の消防立ち入り検査を終え、必要な対応を行うことができた。 ・天候にも恵まれ、年間3回の避難訓練を滞りなく実施することができた。次年度以降は、関係諸組織と協力しながら、以下の未検討課題についても取り組み、安全性の更なる向上に努めたい。 ①東京私中高協会が提唱・実施している緊急時避難場所としての私学生徒の受け入れ方等の検討。 ②災害が発生した際の地域との協力関係についての検討。 ③防災訓練をどのような状況、条件、周期で行っていくかの検討。 ・救命講習やエピペン講習、薬物講習など生命を守るための意識を高める講習や取り組みについては、滞りなく実施することができた。 <p>4. 食堂・購買・スクールランチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・営業停止となった食堂・購買のあり方問題については、現在も施設部と協議中である。また、生徒・保護者に必要に応じて、情報発信を適宜行い、混乱なく必要な対応を進めることができた。 ・スクールランチは、メニューのいくつかの課題が示されたため、一部を中止する対応を行った。結果として健康被害などなく対処することができた。今後は、生徒の学校生活を保障する観点と持続可能性 (業者の採算確保) の両立を目指して検討を行っていきたい。 	<p>高校野球部に仮入部 (中3 11月) してすぐ、ピッチングマシンのボールを入れる係をしていた際、真横からボールをあごに受け、骨折したことがありました。本来 (キャッチャーのような) 防具をつけていれば防げたであろう怪我だったと思います。しかし、その後顔を保護する防具がつけられているかは、私はわかりませんが、もし学校の予算でして頂けるなら安全に対する投資はいろいろな部活に行われてもよいのではと思います。</p> <p>昨年のラグビー部の悲しい出来事を教訓に、更なる安全・防災管理体制の充実が必要だと思う。例えば落雷時の部活動の即中止など。大学生による部活動指導の場合には、危機感の欠如があると思う。</p> <p>メンタル面についても、細やかな気配りがよいと思います。</p> <p>大学が決めるとはいえ、1学期中、食堂がないのはおかしいと思う。生徒を第一に考えてほしい。共働きで食堂があるから、と安心している保護者もいるのに、暫定処置でも取れたのではないかと不信感がある。ましてや、1ヶ月以上、購買もなく、駅前のセブンイレブンも入ってはいけなくて規則があり、もっと生徒の立場になっていただきたい。そんなにこの高校は力がないのですか？</p>
5	<p>連携 (保護者、卒業生、地域等)</p>	<p>1. PTA 役員会、運営委員会の方々をはじめとしてPTAの方々のご尽力で基本的な活動を滞りなく遂行できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員会ならびに運営委員会の活動の工夫・改善：PTA組織と教員組織とで連携し次年度役員候補者の選出ができた。規約の検討をさらに進め、役員選出の方法についても検討したい。 ・各部会の活動の工夫・改善 	

		<p>①文化厚生部：活動の内容がマニュアル化されていて、「鎌倉古寺巡り」「1日講習会」を滞りなく活動することができた。</p> <p>②広報編集部：編集作業のあり方は改善がはかられてきている。原稿の回収方法など、よりよい作業方法を検討していきたい。</p> <p>③公費助成部：社会情勢が厳しい中、署名活動の意義など学習を行い、委員さんも高い意識で取り組んでくださった。しかしながら、集まった署名数の減少に歯止めをかけることはできなかった。個人情報保護法下で署名にどのように取り組むか、大きな課題となっている。小中協議会については、2月に本校にて滞りなく総会を行うことができた。</p> <p>・その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鈴掛祭生徒実行委員会と協議し、協力のあり方を探り、生徒には良い学びとなった。今後は、早め早めに打ち合わせに取り組み、より教育的で中身のある活動を目指していきたい。 ・校歌銘板がPTAより寄贈され、無事に体育館に設置された。 <p>2. 地域</p> <p>地域との関わりにおいては、生徒にとってより広い学習の場、よき市民を育成する機会の1つとして位置づけ、指導を展開した。しかし、今年度も登下校に関しては、いくつかの指摘や助言が届いており、問題は依然として解決に近づいていない状況にある。引き続き、指導員や、必要に応じスクールサポーターとも連携しながら、本校の生徒指導で至らない部分にも細やかに対応していきたい。また、生徒が事故において加害的立場になった場合、または被害を受けるようなケースが発生した場合には、これまでの経験をもとに、迅速かつ確実な対応ができるようにしておく必要がある。</p> <p>3. 卒業生</p> <p>11/19(土)「第19回ホームカミング・デー」を開催した。 幅広い世代の参加者も見られ、退職教員および卒業生の親交を深めた。 参加者：55名(卒業生32名・同窓会役員8名・退職教員1名・教員10名・職員4名) 今後は、内容・予算の両面からより適切な形態を検討していきたい。</p>	<p>部活では、OBが教えにきてくれたりと卒業生との連携は、よいと思います。保護者とは面談などで、詳しく様子などを教えていただいています。地域とは、もう少し近づければと思います。</p>
6	<p>大学との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・7/9(日)「ウェルカムフェスタ」を法政大学市ヶ谷キャンパスで開催した。法政大学三付属校の高校1年生と保護者(希望者)を対象に、法政大学の歴史や大学での学習・生活に関して紹介した。創立130年を超える法政大学の歴史、大学での学びの紹介や大学生の就職活動に関連する講演(保護者の方向け)、希望者対象には現役大学生による学生企画が行われ、進路指導上、有意義な取り組みになった。 ・夏休み中(8/24)に“One Day Science in Hosei Koganei Campus”が開催され、本校から18名が参加した。理系進学希望者にとってその意識高揚をはかる実り多い学習の機会になった。 ・2016年度よりSGHの法政大学と3付属校との協力体制により、2つの企画が展開され、質の高い英語学習の機会となっている。“Hosei Summer English Camp”が8/24～26(2泊3日)の日程で、多摩キャンパスにて行われ、本校からは9名が参加した。訪日留学生を講師に迎え、英語マインド、国際感覚、チームワーク能力を養成する機会となった。また、英語プレゼンテーション大会には、事前のワークショップには4名の生徒が参加したものの、3月のプレゼン大会への生徒の参加は実現しなかった。今後、生徒の学びの機会をより多く実現できるよう学内体制を工夫していきたい。 	<p>現状に満足</p> <p>キャンパスツアーで総長がお話しをされたのは感動しました。中・高・大と法政ファミリーと考えていただいているのだなあと感じました。</p>

付属校独自課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 2018年9月8日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	<p>三者協議会</p>	<p>三者協議会を開催することはできなかった。生徒会行事の開催時期の見直しの検討等に時間を要したため、十分な事前準備を行う時間を確保できなかったことにも一因がある。</p> <p>教員・生徒・保護者の積極的な参加を促進し、より教育的な学校づくりの活動を実現するためにも、次年度は早い時期に生徒会執行部を通して生徒会全体の要求を掘り起こし、三者協議会の議題にふさわしい課題を見つけられるよう着実な努力を重ねる必要がある。その上で、三者それぞれの視点から課題テーマについて検討を行うことにより、課題を改善していく方法を追求していきたい。</p>	<p>昨年度は行われなかったと伺っています。必要がなかったから行われなかったのか、三者のすり合わせが難しいのか、せっかく形があるのに活用されないのはもったいないなという気もします。</p> <p>出席した事がないので、よくわかりませんが、もう少し広く参加者を募集してもよいのではないのでしょうか？(知らないうちに終わってたりします)。</p> <p>現状に満足</p> <p>三者協議会は必ず開催されるべき意義あるものと考えます。</p>			
2	<p>教育理念</p>	<p>法政中高の伝統や校風に対する肯定感や付属校らしい学習に対する期待感を生徒がどのように抱いているか、学校行事へどのような期待をもっているかなど、学校の教育活動に対しての生徒の受け止めを具体的に把握し、教育活動に反映していく必要がある。今年度は実施できなかった生徒アンケートに取り組み、分析を行う必要がある。</p>	<p>一つである「自主自律」はとても素晴らしい理念であると共に、とても難しい理念だと思います。生徒に主体的に任せる先生方の忍耐には、とても感謝しています。</p>			

			<p>そして、時に「自主自律」による子どもの成長の妨げとなっているのが親だったりします。自重を含めて気をつけたいと思います。</p> <p>「自由と進歩」の理念が学生に浸透しているか否か、疑問。週一回 or 月一回程度、このテーマの授業があっても良いと思う。</p> <p>他校を知らないので比較対象がないが、現状には満足している。他校の良い点があれば参考にしても良いと思う。</p> <p>自主自律は、今後の子どもたちにとって、必要不可欠だと思います。</p>
3	入試広報	<ul style="list-style-type: none"> センター試験から大学入学共通テスト(仮称)への移行が検討されているものの、理念が先行して実際が見えにくい状況による大学進学不安に加え、文科省の指導により大手私大の定員厳格化が運用されたことで、大学の合格が難しくなっている事態を背景に、中高から大学付属校を志向する傾向が高まっている。 本校の認知度の向上、出願者のさらなる獲得を目指し、内容を精選しながら広報活動を行った。 入試関連の催しとして、入試結果の報告会(塾対象)、オープンキャンパス、施設見学会、文化祭ミニ説明会、中学夏の説明会、中高秋の説明会、直前対策講習会を行った。基本的には従来の内容を継続するかたちであったが、オープンキャンパスでは、在校生やPTAの協力を得て、入学後の生徒や保護者の観点からも学校を紹介することができた。秋の学校説明会では、多くの教職員の協力を得つつ、滞りなく開催できた。 新入生ガイダンスにおいて、受験生の実態を把握するためアンケートを実施し、志望動機や併願校、入学後に期待すること、宣伝効果、試全般に関する意見などを調査することができた。結果を分析し、今後の広報や入試の活動に役立てたい。 	<p>現状に満足</p> <p>付属ブームと思いますが、今まで通り学校の魅力を伝えていただけたらと思います。</p>
4	地域	<ul style="list-style-type: none"> 地域との関わりにおいては、生徒にとってより広い学習の場、よき市民を育成する機会の1つとして位置づけ、指導を展開した。地域からのご意見は昨年にくらべ減少傾向が見られた。しかし、今年度も登下校に関して、いくつかの指摘や助言が届いているのも事実である。引き続き、本校の生徒指導で至らない部分にも細やかに対応していきたい。また、生徒が事故において加害的立場になった場合、または被害を受けるようなケースが発生した場合には、これまでの経験をもとに、迅速かつ確実な対応ができるようにしていきたい。 昨年度に引き続き取り組んだクラブ終了後の下校チェックなど、様々な取り組みによって、近隣住民との関係に改善がみられるようになってきた。しかしながら、いくつかのクラブでは、下校時刻や下校マナーの点で近隣より指摘を受けることがある。登下校指導やクラブ活動終了後の下校指導のあり方など、事態の改善に向けて、教員と生徒会執行部のそれぞれに何ができるかを引き続き検討していきたい。 	<p>いくつかのクラブでは時刻、マナーの指摘を受けることがあり、改善に向けて教員、生徒会に働きかけるとあるが、各々のクラブでしっかり教育するべきだと思う。</p> <p>地域との連携については、学校・先生方には多大なご苦勞をおかけしていると推察。家庭内での指導も重要だと思う。</p> <p>地域との関わりは、子どもたちの心の成長に大きく影響すると思います。先生方、保護者が、がんばるのではなく、子どもたちを積極的に地域に参加させてみてはいかがでしょうか(ボランティアなど)。</p>
5	子育て茶話会	<p>本会は2012年より緩やかにスタートし、2017年度はPTAの日程に合わせて月1回土曜日に開催し、年間6回実施した。保護者、教員、スクールカウンセラーなど多くの方々の参加を得て、「思春期の子どもとの関わり方」「親離れ、子離れ」など様々な話題で懇談した。また、父親の参加者も増え、先輩保護者や様々な角度からアドバイスをもらうことが出来て、心強いという評価を頂いている。一方で参加者が固定化している面もあることから、各学年会からの働きかけを活発に行っていきたい。</p>	<p>とても良い試みだと思います。</p> <p>2年前から参加させていただいていますが、毎回、いろいろな趣向をこらし、親と子のために考えることのできる場をつくってくださっています。参加するといつもホッとします。</p>